

# 5 アトピー性皮膚炎の プロアクティブ療法と感作

## Proactive therapy for atopic dermatitis and percutaneous sensitization

福家辰樹

FUKUIE Tatsuki

国立成育医療研究センター生体防御系内科部  
アレルギー科

### Summary

近年、表皮バリア機能異常がアトピー性皮膚炎(AD)のみならず、その後の食物アレルギーの発症リスクとなることが報告されている。プロアクティブ療法は湿疹が寛解した後も予防的に抗炎症外用薬を塗布する寛解維持療法だが、ADでは感作に寄与する免疫学的変化は非病変部にも認められ、寛解維持がのちの感作を予防する可能性に期待が寄せられている。われわれは中等症以上の小児ADを対象にランダム化比較試験を行い、プロアクティブ療法の有効性と安全性を検証した。このなかで、ダニ特異的IgEはリアクティブ療法群と比較し、プロアクティブ療法群で上昇を抑えたことから、プロアクティブ療法が感作リスクを抑制する可能性が示唆された。

### プロアクティブ療法

再燃をよく繰り返す皮膚疹に対して急性期の治療によって寛解導入したのちに、保湿外用薬によるスキンケアに加え、ステロイド外用薬やタクロリムス外用薬を定期的に(週2回など)塗布し、寛解状態を維持する治療法。

### 感作

アレルゲン曝露によりアレルギー症状が生じる状態になること。その成立には個体側の要因や環境要因としてのアレルゲン量、アレルゲン自体の特性に加えて、アレルゲンの曝露経路が重要と考えられている。

### KEY WORDS

アトピー性皮膚炎／アレルギーマーチ／感作／プロアクティブ療法／予防